

秋田大学医学部保健学科
令和7年度一般選抜（後期日程）

小論文問題

次の文章を読んで、下記の問いに答えなさい。解答は、別紙「小論文解答用紙」に横書きで記載しなさい。ただし、句読点等も字数に含むものとする。

長かった入院生活を終えて、アリス^{注1)}は家に帰ってきました。以前はなかったたくさんの医療機器と一緒に。最初のころは毎日を無事に過ごすための緊張感が凄まじく、ちょっとアリスから目を離れた隙に何かが起こるのではないかと心配で、トイレのドアも閉められませんでした。アリスが寝ているときはちゃんと呼吸をしているか常に確認し、深夜にサチュレーションモニター（SpO₂モニター）^{注2)}のアラームが鳴ろうものなら瞬時に飛び起きました。人の命を預かる責任の重さ、大変さは日々痛感していましたが、そんな生活でも苦に感じなかったのはアリスがいつも明るく、時にはおもしろいことを言って私たちをよく笑わせてくれたからです。不自由な身体をものともしないアリスの明るさとアリスがもたらす笑いに家族はみんな救われていました。

（中略）

やがて私たちは、アリスを幼稚園に通わせることはできないかと考え始めました。一人っ子のアリスは生まれてからずっと大人ばかりに囲まれて育ち、お友だちとの横のつながりを知りません。家での生活が落ち着いてきた今、これからも家のなかで大人だけに囲まれて暮らすよりも同年代のお友だちをつくって集団生活を経験できたら、アリスにとってとてもよい刺激になると思いました。アリスは好奇心旺盛なのでいろいろなことに興味があり、自分の身体では到底無理なことにも挑戦しがります。そんなアリスの気持ちにできるかぎり応えてあげたい。難しいことは承知のうえでいくつかの幼稚園を訪ねて相談しましたが、やはりアリスのような重度障がい児はどこも怖がって受け入れてくれません。入りたくても入り口さえ開けてもらえないのです。それでも諦めずに探して探して、ついにアリスを受け入れてくれる幼稚園を見つけました。

（中略）

こうして私と2人で幼稚園に通うことになったアリス。最初は週1回からのスタートでしたが、週1回でもアリスにとっては生活のなかの大イベントです。初めて登園した日はさすがのアリスも緊張して言葉が出ず、クラスのみならずアリスの容姿を見て驚いていました。「鼻に何が入ってるの?」「なんで手が曲がってるの?」「いつ歩けるようになるの?」。質問は全部私に飛んできます。でも、鼻から出ているSTチューブ^{注3)}も曲がった手足も常にバギーに乗っているのも、すべては生まれつきの病気のためだと一言説明しただけで子どもたちの警戒心はなくなり、みんなが率先してアリスに絵本やおもちゃを取ってきてくれるようになりました。こうしたお友だちの親切に触れるのもアリスには初めての経験です。お互いに戸惑いがあったのは初日だけで、その後はアリスもお友だちと同じ園生活を送ることができました。

ある日、アリスは同じクラスの男の子から旅行のお土産でキーホルダーをもらいました。そんな経験が初めてのアリスはとても喜んで、さっそく自分のバッグに付けました。後日、その男の子のお母さんにお礼を言うと、思いもよらない返事が返ってきたのです。「実はあの子は自閉症で、今までお友だちや他人のことを気にすることなんてなかったんです。それがこの前、旅行に行ったらアリスちゃんのことを思い出して、『アリスちゃんもこのキャラクターが好きだからお土産に買って渡したい』と言ったんです。そんなことは初めてでびっくりしました」。嬉しそうに話すそのお母さんを見て、子どもに心配を抱えながら育てる親の気持ちが痛いほどわかりました。何をしても人の手を借りないとできないアリスがお友だちに何か影響を与えられたのだとしたら、こんなに嬉しいことはありません。

注1) 遺伝性神経難病である脊髄性筋萎縮症（進行性の疾患で、診断時は根本的な治療法はなし）と診断された3歳女兒。

注2) 動脈血酸素飽和度を測定するための機器。

注3) 鼻から胃に挿入したチューブで、そこから栄養剤を投与する。

出典：萩原綾子・他 編著「おしゃべりアリスの物語 難病の子どもの家族と医療者が倫理的課題に向き合う」へるす出版（2022年）から一部改変抜粋

問1. なぜ著者（アリスの母）は下線部「こんなに嬉しいことはありません」と感じたのか、本文の内容を参考にして200字以内で説明しなさい。

問2. 重度障がい児が幼稚園など地域社会へ参加していく上で現在、課題となっていることを2つ挙げ、それらの課題を解決するためにどのようなことが必要か、あなたの考えを600字以内で述べなさい。